

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 若手教員比率について

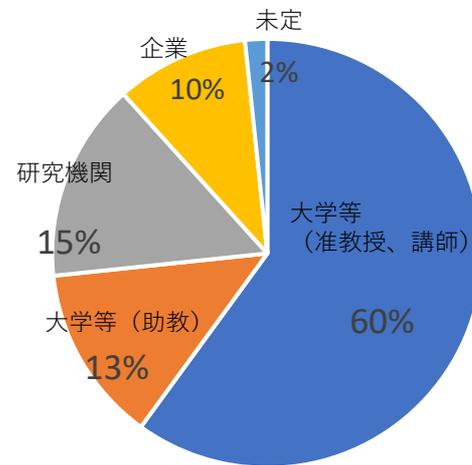


若手教員比率の高い国立大学（上位10大学）

| 順位 | 大学名 | 若手比率 |
|-----|---------------|-------|
| 1位 | 奈良先端科学技術大学院大学 | 42.2% |
| 2位 | A大学 | 33.6% |
| 3位 | B大学 | 33.6% |
| 4位 | C大学 | 32.5% |
| 5位 | D大学 | 31.2% |
| 6位 | E大学 | 30.5% |
| 7位 | F大学 | 29.0% |
| 8位 | G大学 | 28.6% |
| 9位 | H大学 | 28.2% |
| 10位 | I大学 | 27.4% |

文部科学省令和6年度概算要求「成果を中心とする実績状況に基づく配分」フィードバックデータから本学にて集計（R2年度～R4年度の3か年合計の数値であって、常勤教員（特任教員含む）のうち40歳未満の者の比率）

助教の退職後の状況(2020-2023)



本学の若手教員比率は、「第6期科学技術・イノベーション基本計画（令和3年3月26日閣議決定）」において目標とする「3割以上」を大幅に上回り、国立大学中トップクラスの状況を実現しています。

助教は、任期付き採用を原則として研究者の流動性を確保する一方、任期終了までに大学・大学共同利用機関、研究機関、企業等へステップアップすることを念頭に、充実した研究環境の中で教育研究の業績を上げられるようサポートしています。

今後とも、このような若手人材の循環によって、我が国トップクラスの若手教員比率を維持し、「多彩な発想や変化への柔軟性をもたらす教職員・学生の多様性・国際性の向上」という学長ビジョン2030の達成を目指すとともに、次世代を担う優秀な若手研究者の育成・輩出に努めてまいります。